

■むらづくりの主な施策

誰もが平和に暮らせる社会を希望 ～恒久平和主義～

国際的にも政治や経済も大きく変動する時代でもあります。

「Think Global, Act Local.」まさに地球的な規模で考えて、地域のために行動する時代です。

ロシアとウクライナの紛争やイスラエルとパレスチナの激しい戦争が行われ、世界は領土や民族や宗教などによる紛争が絶えません。子供たちを含む多くの尊い人命が失われており、また輸入に頼る我が国のエネルギーや食糧などの物価高騰により私たちの日常生活にも大きな影響が生じております。一日も早い平和的解決を望みます。

一人の人間の命の重さは全地球の重さより重たいと言われます。人間の尊厳と幸福を追求する権利は世界の人々にも適用されます。そのため2020年（令和2年）に「孺恋村人権宣言条例」を制定しました。

高原に抱かれた美しい希望の里を目指して大自然と共生

現在孺恋村では、第六次総合計画により、「高原に抱かれた美しい希望の里」の村づくりを推進しております。

孺恋村は日本百名山の浅間山、四阿山、白根山の3つの山に囲まれた自然豊かな高原の村です。

1980年（昭和55年）には白根山と万座温泉地区が志賀高原を含む地域とともにユネスコによるエコパークの認定を受けています。

2016年（平成28年）には浅間山からハツ場ダムまでを含む地域が日本ジオパークの認定を受けました。豊かな自然と大地の恵みに囲まれた高原キャベツ日本一の村です。

2021年（令和3年）には浅間高原野鳥の会が設立されました。村内には約135種類の野鳥の生息が確認されております。

今後も美しい自然環境の保全と持続可能な産業の発展を目指します。

孺恋村防災の日宣言 ～安全安心に暮らす～

令和元年10月12日台風19号「東日本台風」により村内は甚大な災害を受けました。復旧復興費用約270億円でほぼ工事は完了しましたが、今後もこの教訓を活かして村内の社会資本の強靱化と、村民の安全安心に勤めます。この日10月12日を「孺恋村防災の日」と制定しました。

近年は百名山をはじめ登山者が増加しており、また山菜取りなどでの入山者が増加し遭難も増えております。ジオパークの活動でも浅間山登山道の建設を環境省の協力で進めており、2023年（令和5年）に孺恋村山岳遭難防止対策協議会を設立しました。

ポンペイ市や横浜市中区など関係都市と交流

2022年7月4日（令和4年）イタリアのポンペイ市と友好協定締結を行いました。西暦79年のヴェスヴィオ火山の噴火で古代都市が埋没した世界遺産の都市です。1783年（天明3年）の浅間山の噴火で鎌原村が埋没した共通の歴史があり、仮調印から10年目にやっと本調印となりました。これを機会に孺恋村国際交流協会を設立しました。昨年末現在で村内には25カ国約360人の外国人が暮らしており日本語教室も毎月開かれております。

2016年2月12日（平成28年）に横浜市から横浜開港の功労者と認められている中居屋重兵衛の功績を御縁として横浜市中区との友好協定締結が行われました。横浜市は山下公園や開港資料館や横浜スタジアムや港の見える丘公園や中華街もある日本有数の国際都市でもあります。

今後は交流人口の拡大から移住定住を含めた関係人口の増大化に勤めてまいります。

健康で文化的な生活の拠点サーラ孺恋を活かす

今年の8月には現在建設中の新孺恋会館のサーラ孺恋が完成予定です。

名称は公募を経まして応募総数455点の中から「サーラ孺恋」と決定しました。サーラとはイタリア語でSALA（ホール）を意味し、ポンペイ市との友好協定の締結もあったことから決定しました。

旧孺恋会館は国の耐震基準がクリアできておらず、建て替えを進めてまいりました。今後は舞台や音響や照明も備え、座席移動による会議室にも利用できる多目的ホールとなります。

座席数280席、駐車場約300台。東部地区の災害時の避難所機能の充実、太陽光や地中熱の活用、村有林のカラマツの活用など環境にも配慮した施設となっております。

今後の活用や運営につきましては昨年秋に教育長を中心に文化協会、スポーツ協会等各種団体の代表を構成員とするサーラ孺恋運営協議会を設立し協議をすすめております。

上信自動車道4年後に鎌原まで開通予定

現在群馬県で一番重要な道路は上信自動車道です。私も群馬県道路協会長として県全体の道路予算の確保に努めるとともに、今後も国と県にしっかり予算確保のお願いをしてまいります。

さらに4年後には渋川から鎌原までは全線開通の予定で工事は進んでいますが、計画通りに事業が進捗するよう全力で取り組んでまいります。

また、今年度中には鎌原から田代までの孺恋バイパスにつきルートの確定をしていただき整備区間に指定していただくようお願いをしています。この間には四車線の追い越し車線や除雪基地の設置も検討していただきます。西部地域の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

役場庁舎の建設とグランドデザイン策定

孺恋村では公共施設等総合管理計画を策定し人口減少社会に対応するため現在107ある公共施設を再編する予定です。今後の大きな課題は役場の建て替えであり、役場庁舎には保健センターを併設し、隣接に吾妻広域消防孺恋分署を建設したいと考えております。

役場庁舎の建設には、すでに振興開発基金として一部資金を確保しておりますがさらに計画的に基金の積み立てが必要です。さらには千代田区役所や座間味村役場と同じように民間資金を活用するPFIの活用を検討する予定です。

上信道の整備や役場庁舎の建設など村全体のグランドデザインを今年は策定してまいります。役場内では副村長中心に昨年より検討委員会を重ねておりますが、議会や各団体、各地域の皆さんにもご理解とご協力をお願い致します。

未来への投資・子育てをしやすい村づくり

孺恋村で1年間に生まれる子供が50人を切っており、特にコロナ禍では40人前後となりました。

学校給食費の無償化については現在国会で議論がされておりますが、孺恋村では既に平成28年から他の地域に先駆けて、学校や幼稚園の給食費無償化を始めてきました。保育料無料化、スクールバス無料化、高校生までの医療費無料化も実施しております。

また、現在ではこども家庭庁も創設され、出産から育児までを一体的に行政的なサポートができる社会の実現に向けてスタートしましたが、孺恋村は子育てしやすい村づくりを今後も推進してまいります。

孺恋村長 熊川 栄